



郷土の暮らし

七種山や市川などの美しい自然に抱かれた福崎町域には、旧石器時代には人がいたとされ、縄文時代以降、この地で人々が暮らし続けています。

人々は集まって暮らすなかで、場所や生業、信仰、家などのつながりで社会的なまとまりをつくって助け合い、時代ごとの新たな技術や知恵を取り入れながら、暮らしの質を高めてきました。このことは、現在に伝わる遺跡や出土遺物、民具、古文書類などが如実に物語っています。

科学技術の進歩などにより生活様式は大きく変化しましたが、地域の土地利用や組織、自然との関わり方、生活用具など、所々にその痕跡を垣間見ることができ、現在の私たちの暮らしが、先人のたゆみない努力の結晶であることを感じることができます。

■原始・古代の暮らしを伝える遺跡

町内で今からおよそ2万年前の人々が使っていた石器が見つかることから、少なくともその時代には人がいたと思われます。以降、縄文・弥生・古墳、そして、古代の飛鳥・奈良・平安に至る各時代において、町内各地で人々が暮らしを営み、残された数多くの遺跡から、各時代の暮らしの様子が明らかになってきています。

【縄文時代】

人々は小さい川近くの山すそに住んで、石器や縄文土器を用いた狩猟・採集の生活を送っていました。八千種地区の平野部には多くの落とし穴が見つかり、水を飲むために山から川へと向かう動物を捕獲していたと考えられています。



落とし穴のイメージ

落とし穴（上から）
（八千種庄古屋敷遺跡）

【弥生時代】

稲作が伝わり、人々は定住し、安定した生活を営むようになりました。それは一方で、地域のまとまりとその頂点に立つ有力者を生み出し、環濠を巡らせたとされる高所の集落遺跡（南田原長目遺跡）から、地域間の争いが生じていたとも考えられています。

【古墳時代】

本町域では5世紀から6世紀に多くの古墳が築造されました。有力者の権力の象徴でもある古墳は、その周囲に築造に関わった集落があったと考えられ、妙徳山古墳と加治谷敷下五反畑遺跡など、古墳と集落の関係も明らかになりつつあります。



相山古墳

【飛鳥・奈良・平安時代】

「大宝律令」によって古代律令制が確立し、国・郡・里（郷）が置かれました。本町域は播磨国神前郡の高岡里、川辺里、多駝里にあたるとされています。また、条里（条坊）制により土地を碁盤目状に区切り、班田収授法に基づいて農民には口分田が支給されました。町内でも平野部の南田原条里遺跡で畔の状況から条里の痕跡が推測できます。

■中世荘園と人々の暮らし

中世は荘園制社会であり、本町域には田原荘、高岡荘、蔭山荘の3つの荘園がありました。現在の田原地区は田原荘、福崎地区は高岡荘、八千種地区は蔭山荘に属したと考えられ、荘園から穫れた米は、年貢米として領主へ納められました。

■近世の村々と古文書

江戸時代の村々の様子を伝える資料に、村明細帳があります。福崎町域32村のうち14村（19冊）に明細帳が残っています。作成年代は、江戸時代中期から後期で、明細帳には、耕地面積、石高、年貢、人口や作物の品種、特産品、余業、用水、入会山などが克明に記され、村の様子や村人の日常生活も知ることができます。

また、村の景観を平面的に描いた絵図も数多く作成されており、道、田畑、川や池、山、寺社、家屋などが描かれ、当時の土地の使い方などを知ることができます。



西治村の村明細帳

■村の組織とイトウ

現在の福崎町の33自治会は、概ね近世の村（集落）を引き継いでいます。この村のなかにも、かつては近隣の数軒～十数軒の家が集まってつくられた組織（ジョなどと呼ばれる）があり、田植え前の溝普請や、夏の山林の下草刈り、冬の道普請などの共同作業や相互扶助が行われていました。第二次大戦中に隣組が制度化されて、ジョを引き継ぐ形で隣保組織ができ、現在も各自治会のもとに隣保が置かれて神社の管理や清掃などの共同作業が行われています。

一方、かつては、このような村の社会組織とは別に、同じ名字の家で組織されたイトウがあり、先祖の祭りや慶弔時の行事などが行われていました。他地域からの来住者の増加や生活様式の変化などにより、現在、イトウの多くは失われていますが、自治会内に同じ名字の家が多いことなどに、その名残をとどめています。

■暮らしの道具

遺跡から出土する遺物や各家に遺された民具は、往時の人々の暮らしを知ることができると同時に、時代を通じた道具や技術の変遷を知る手がかりとなります。

稲作が始まった弥生時代には、米を貯蔵する壺、米を煮炊きする甕、盛りつけをする鉢や高坏などが用いられました。時代を経るなかで土器は改良され、煮る、蒸す、炊くなどの調理ができるようになりますが、現代の鍋やせいりと同じようなものが当時から使われていたことも分かっています。

また、福井谷遺跡出土の木製の鍾は、現代に残る民具にも同様のものがあり、俵を編む作業は昔から大きく変わらずに行われていたことが分かります。

歴史民俗資料館では、衣食住に関わるさまざまな遺物や民具を保管・展示しています。

イトウの事例（西治区）

牛尾イトウ、木村イトウなどがあり、一年に一度、先祖の祭りを講のかたちで行っていました。

ステバカ※もイトウごとに区分が分けてありました。

※遺体を埋葬する「埋め墓」と、靈魂を祀る「詣り墓」をもつ両墓制における「埋め墓」を「ステバカ」とも呼びます。



歴史民俗資料館での民具の展示

■豊かな暮らしを支える美しい自然

西光寺野の台地状の地形や市川の氾濫など、福崎町の自然は人々の暮らしにとって必ずしも優しいものばかりではありませんでした。しかし、人々はこの地を選び、美しい自然とともにある豊かな暮らしを営んできました。

美しい自然は、近代、地域の政治・文化の中心として本町に集った多くの文化人たちの詩歌や絵画の題材にもなりました。明治19年（1886）には、林雙橋（淡路出身の儒学者）、倉本樺山、三木通済が郡内の風景のすぐれた場所を「神崎十勝」として選び、雙橋と樺山が漢詩をつくり、藤本煙津が絵を描いています。本町域では「七種瀑布」、「高岡紅葉」、「妙徳晚鐘」、「巖橋秋月」、「辻川古樅」の5つが選ばれています。



「神崎十勝図巻」(妙徳晚鐘・巖橋秋月部分)

なお、七種山は、昭和6年（1931）以降、七種霊山保勝会が観光開発を進め、昭和11年（1936）には、「七種瀧金剛城寺」が県下八景に選ばれました。

■関係する主な歴史文化遺産

【主な成立時期】原始・古代～近代

項目	田原地区	八千種地区	福崎地区
遺跡や出土遺物	<ul style="list-style-type: none"> 南田原長目遺跡 南田原条里遺跡 加治谷敷下五反畑遺跡 西広畑遺跡 妙徳山古墳【県指定】 東広畑古墳【町指定】 東新田古墳【町指定】 歴史民俗資料館の所蔵遺物 	<ul style="list-style-type: none"> 福井谷遺跡 八千種庄古屋敷遺跡 八千種庄春日遺跡 八千種庄北狭遺跡 西大貫遺跡 鍛冶屋遺跡 相山古墳【町指定】 八千種埋蔵文化財倉庫の収蔵遺物 	<ul style="list-style-type: none"> 林谷遺跡 朝谷遺跡 桜東畑遺跡 田口トツタニ遺跡 西治下代ノ下モ遺跡 大塚古墳【町指定】 神谷古墳【町指定】 朝谷1号墳【町指定】
民具（生活用具）	<ul style="list-style-type: none"> 歴史民俗資料館の所蔵民具（着物類、炊事用具、家具・調度品など） 	—	—
文書・書画等	<ul style="list-style-type: none"> 三木家文書 区有文書、寺社文書などの古文書 歴史民俗資料館の所蔵品（書画等） 	<ul style="list-style-type: none"> 区有文書、寺社文書などの古文書 	<ul style="list-style-type: none"> 区有文書、寺社文書などの古文書
自然資源	<ul style="list-style-type: none"> 辻川山 大門宮山 妙徳山 市川 雲津川 	<ul style="list-style-type: none"> 春日山 日光寺山 住吉山 高倉山 	<ul style="list-style-type: none"> 七種山【県指定】 神前山 應聖寺庭園【県指定】 市川 七種川



妙徳山古墳



西治下代ノ下モ遺跡出土品



田原村西田原小学絵図（井ノ口区蔵）

